

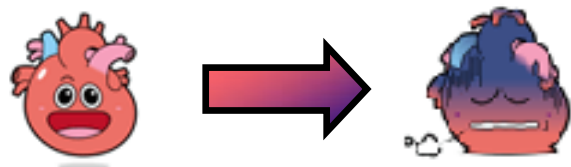
平成 24 年 5 月 1 日

最近、動悸、胸の痛みや不快感、ふらつき、全身倦怠感などありませんか？それは心房細動の初期症状かもしれません。心房細動が長時間続くと心臓に血栓（血の塊）ができ、血液の流れによって運ばれて脳や心臓の細い血管につまり、脳梗塞（手足がしびれる、見え方の異常、ろれつが回らないなど）や心筋梗塞（胸周囲の圧迫感・痛み、息切れや冷や汗・吐き気）の症状が出る場合があります。

今回は、「心房細動」についてお話しします。

● 心房細動とは？

心臓は筋肉でできた袋状の臓器で血液を送り出すポンプとして働いています。1分あたりの血液を送り出す回数は心拍数と呼ばれ、命令を伝える電気信号によって調節されています。



心房細動は、この電気信号による命令伝達の異常により心臓の筋肉がうまく動かなくなり、小刻みに動く状態で、結果として血液が正常に送られなくなります。

→血液の流れがよどみ、血栓（血の塊）ができやすくなります。

→血栓がはがれ、血流に乗って体の各部に移動します。

→脳の血管で血栓が詰まると**脳梗塞**が起こります。

心臓の血管で詰まると**心筋梗塞**が起こります。

特に、心房細動による脳梗塞は広範囲の梗塞を生じることが多く重症化しやすいといわれているため、予防のための心房細動の治療が重要です。

◆原因

検査を行っても原因がわからないこともあります。多くの場合は高血圧症、糖尿病や飲酒、喫煙、ストレスなどの生活習慣が関わっているようです。



◆種類

心房細動は発作性心房細動と慢性心房細動に分類されます。

- ・発作性心房細動：時々心房細動が起こります。
- ・慢性心房細動：長期間、常に心房細動の状態です。

● 治療

心房細動という病名は1つですが、症状は患者さまごとに異なります。主に、心房細動の種類や症状の強さ、合併症（ほかにかかっている病気）の有無などによって最適な治療法を選びます。

- ・発作性心房細動の治療：心房細動発作を治療・予防し、血栓症を予防します。
- ・慢性心房細動の治療：心拍数の調整と血栓症の予防を行います。

基本的には食事や運動など生活習慣の改善や薬により治療を行います。効果が見られない場合や急いで心房細動発作を停止させたい場合には電気ショックや心臓カテーテルを用いて治療することもあります。また、ほかに原因となりうる疾患がある場合は、その疾患の治療を併せて行います。

薬物治療には下のようなお薬があります

- ① 心房細動を停止、再発予防する薬→抗不整脈薬
(サンリズム、シベノール、アミオダロンなど)
- ② 心拍数を調節する薬→ベータ遮断薬（アーチスト、メインテートなど）
カルシウム拮抗薬（ワソランなど）
ジギタリス製剤（ジゴシンなど）
- ③ 血栓症を予防する薬→**抗凝固薬（ワーファリン、プラザキサ、イグザレルト）**
抗血小板薬（バイアスピリン、プラビックスなど）

※抗凝固薬

- ・**ワーファリン**（錠剤、顆粒剤）
血液凝固因子を作る手助けをするビタミンKに拮抗します。
(注意) ビタミンKを多く含む食品は避けましょう。
(納豆、青汁、クロレラなど)
効き目に個人差があるため定期的に血液検査が必要です。
妊婦又は妊娠の可能性のある方は服用できません。
- ・**プラザキサ**（カプセル）
血液凝固に關与する酵素であるトロンビンを阻害します。
1日2回服用します。
- ・**イグザレルト**（錠剤）
血液凝固因子である第X a 因子を阻害します。
1日1回服用します。



※**抗凝固薬は出血しやすくなるお薬です。**

他院、他科受診される際は担当の医師に服用していることをお伝えください。

<参考>

- ・エーザイ心房細動手帳
- ・インタビューフォーム（ワーファリン、プラザキサ、イグザレルト）
- ・今日の治療指針 2010
- ・今日の治療薬 2011
- ・バイエル心房細動の患者さんへ
- ・心房細動による脳梗塞を予防する：<http://stop-afstroke.jp/>